

1 気象概況（9月：果樹研究所）

9月の平均気温は、22.1℃で平年より1.2℃高く経過しました。この期間の降水量は188.0mmで平年の119%、日照時間は平年の120%でした。

2 土壌の水分状況

9月30日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで2.5、深さ40cmで2.3、深さ60cmで2.3となっており、適湿状態にあります。

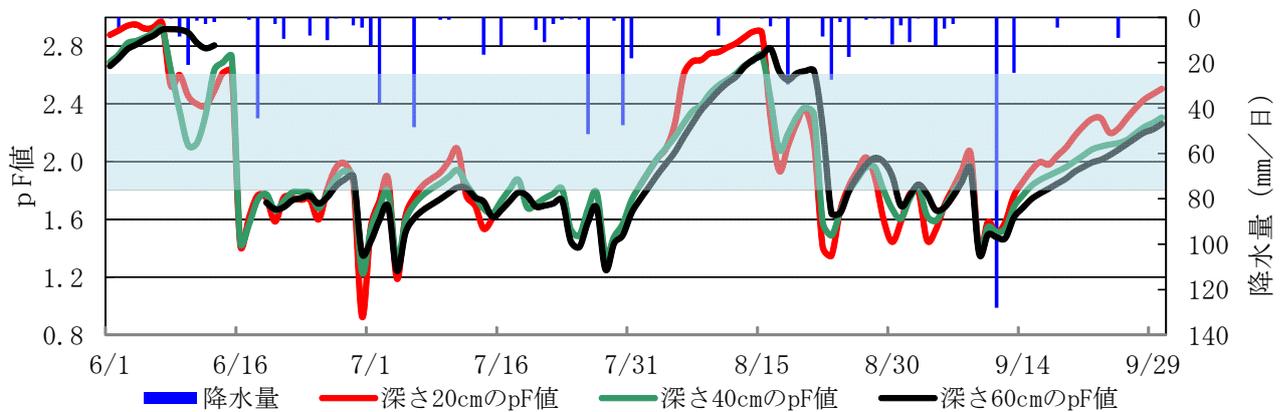


図1 土壌pF値の推移（果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）
 図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

3 生育状況（10月1日時点：果樹研究所）

(1) なし

「豊水」の収穫盛期は平年並でした。収穫時の平均果重は平年より大きく、糖度は平年並でした。

「二十世紀」の収穫盛期は平年より8日早まりました。収穫時の平均果重は平年より大きく、糖度はやや低くなりました。

「ラ・フランス」の成熟調査では、果肉硬度、地色指数、デンプン指数はいずれも平年並でした。

表1 なし主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/21	8/25	8/20	8/23	8/31	8/23	8/26	9/6	8/27	403	380	365	11.3	12.6	12.7
豊水	9/4	9/13	9/4	9/19	9/19	9/8	9/24	9/25	9/18	510	429	307	12.5	12.8	14.4
二十世紀	9/11	9/18	9/11	9/14	9/22	9/13	9/18	9/27	9/18	441	401	424	10.2	11.2	11.6
ラ・フランス	未	10/6	9/27	未	10/7	9/27	未	10/9	9/27	未	294	275	未	12.9	12.9

注) 平年値は、1986～2015年（ラ・フランスは1987～2015年）の平均値 未は未確定。下線は参考値

(2) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が79.8mmで平年比101%、横径が86.5mmで平年比101%と平年並、生育日数による比較でも平年並となっています。

イ 「ふじ」の果実成熟

9月25日（満開後146日）の「ふじ」の成熟は、硬度は11.3ポンドで平年より低く、デンプン指数は3.5で平年より高い状況です。また、果皮に含まれるクロロフィル含量、アントシアニン含量ともに平年より高く推移しています。

※りんごのデンプン指数：指数1～5で評価し、数値が高いほどデンプンの消失が進んでいます。

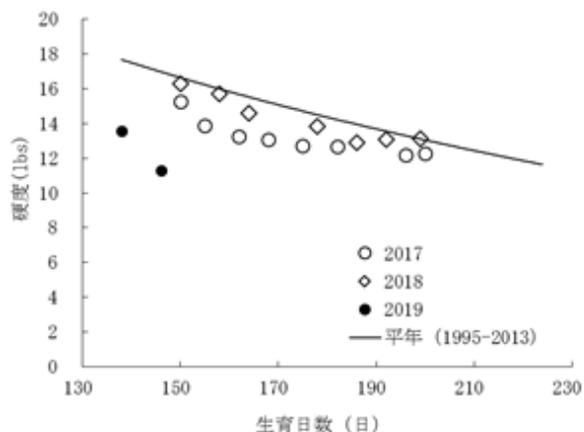


図2 「ふじ」の果肉硬度の推移

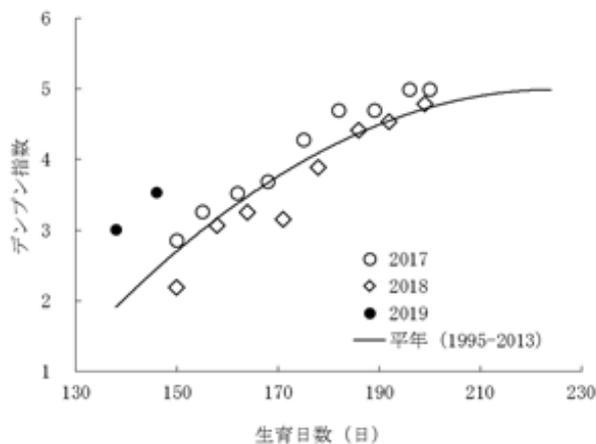


図3 「ふじ」のデンプン指数の推移

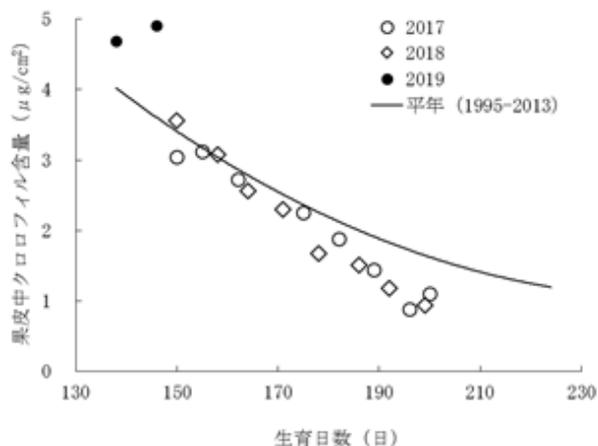


図4 「ふじ」のクロロフィル含量の推移

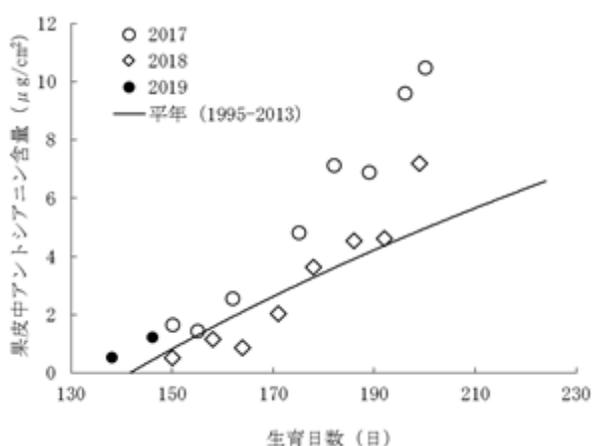


図5 「ふじ」のアントシアニン含量の推移

(3) ぶどう

ア 「巨峰」及び「ピオーネ」の収穫期と果実品質

「巨峰」（無核栽培）の収穫始めは9月6日で平年並、収穫盛りは9月19日で平年より9日遅くなりました。「巨峰」（無核栽培）の糖度は平年より低く、酒石酸含量は平年よりやや低く、糖酸比は平年より低くなりました。

「ピオーネ」の収穫始めは9月19日で平年より1日早く、収穫盛りは9月25日で平年並でした。「ピオーネ」の糖度は平年並、酒石酸含量は平年よりやや低く、糖酸比は平年並でした。

表2 「巨峰」、「高尾」及び「ピオーネ」の果実品質

品種 (栽培方法)	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰(有核)	10.3	10.2	9.9	18.4	19.2	20.3	0.46	0.53	0.48	39.6	38.0	42.8
巨峰(無核)	8.6	9.6	9.7	14.3	16.6	16.9	0.49	0.53	0.54	29.4	33.4	31.3
高尾	10.8	9.9	10.8	20.0	19.0	19.1	0.46	0.48	0.45	42.9	40.8	42.5
ピオーネ	8.9	9.4	11.1	17.6	17.9	18.4	0.46	0.49	0.49	38.4	37.6	37.8

注) 平年値: 「巨峰」(有核栽培)及び「高尾」は1988年～2015年の平均値
「巨峰」(無核栽培)及び「ピオーネ」は1998年～2017年の平均値

イ 「シャインマスカット」の成熟状況

9月26日の収穫果(満開後111日)の果実品質は、果房重が461.4g、1粒重が12.8g、糖度が15.9° Brix、酒石酸含量が0.32g/100ml、糖酸比が49.3でした。

4 栽培上の留意点

(1) なし

果樹研究所の「ラ・フランス」のデンプン指数は平年並に低下してきていますが、収穫が遅れると内部褐変や果肉の粉質化が起こりやすくなるため、表3を参考に収穫が遅れないように注意しましょう。

表3 「ラ・フランス」収穫適期の新たな基準

	生育日数 (日)	地色 指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
新たな基準	160～165	3.0	11	3.0～3.5

注)平成28年度農業総合センター普及成果情報

(2) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

1回目の葉摘みは、果実に接している葉を中心に数枚程度実施し、併せて玉回しを行い、10月中旬以降の2回目の葉摘みでは、個々の果実に光が当たるように丁寧に実施しましょう。

反射シートの敷設は、遅れないように実施し、枝の下垂が目立つ骨格枝等には枝吊りや支柱立てを実施しましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて収穫適期の品種から収穫しましょう。なお、わい性台樹の生育は、マルバ台樹よりも早い傾向があるため、収穫が遅れないよう注意しましょう。

(3) ぶどう

ア 冬肥

県施肥基準に従い、冬肥の施用は、落葉期の11～12月に行いましょう。ただし、秋肥(9月)の施用が未実施の場合は、早急に実施しましょう。「巨峰」成木における年間施肥量の目安(10a当り分量)は、窒素6kg、リン酸8kg、加里8kgであり、窒素は秋肥、冬肥、春肥で各2kgずつ施用します。ただし、樹勢が強い場合は窒素の施用量を減らしま

しょう。

なお、堆肥等は冬肥時に併せて施用し、その分量を考慮して冬肥施肥量を調整します。

イ 間伐・縮伐

樹冠が拡大し枝が混み合ってきた場合、早めの間伐や縮伐を実施しましょう。間伐や縮伐は収穫終了直後に行うと良いでしょう。この時期はまだ葉があるため、枝の混み具合がわかり、残った枝に良く光が当たるようになり、養分蓄積にも有効です。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモせん孔細菌病

今後の降雨により感染の拡大が懸念される状況にあるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。薬剤は4-12式ボルドー液またはI Cボルドー412 (30倍)、クレフノン (100倍)加用コサイド3000 (2,000倍)またはクレフノン (100倍)加用ムッシュボルドーDF (500倍)のいずれかを選択し、10月上旬に十分量を散布しましょう。

イ ナシ黒星病

冷涼多雨な気象条件では翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、2回目の秋期防除を実施していない園では速やかに防除を行いましょ。薬剤は、オーソサイド水和剤80 (600倍)またはベルクト水和剤 (1,000倍)を選択し、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>